

令和7年度 第2回全難言協全国理事会

日時: 令和7年7月28日(月) 14:30~16:30

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

<開会のことば>

全難言協 副会長 鹿児島県南さつま市立加世田小学校 岩 奈津子

全国から先生方や関係者の皆さんが集まり、直接顔を合わせて意見を交わせることを嬉しく思います。東京大会の準備にあたっては、多くの方々が心を込めて力を尽くしてくださり、本当に感謝しています。ぜひ、活発な意見交換と温かいご協力をお願いします。

<会長 挨拶>

全難言協 会長 世田谷区立駒沢小学校 校長 鈴木 隆弘

本日から全国大会が始まります。日々の業務に加えて、今大会に向けた準備にも大変ご尽力いただき、本当にありがとうございます。この3日間が実りある学びの時間となりますよう、参加者の皆さんもいろいろな場面でご支援・ご協力いただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

<来賓 挨拶>

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 村上 学 様

先日発表された令和5年度の通級による指導の実施状況調査では、通級を受ける児童生徒数が20万人を突破し、過去最多となりました。障害のある子どもへの教育課程の充実については、より柔軟な通級指導の在り方が課題となっております。今後、きこえとことばの教室をはじめとする通級指導には、ますます注目が集まることが予想されます。こうした中で、本研究協議会の役割はさらに重要になっていくと考えます。本日から始まる大会が充実したものとなることを願っております。

東北福祉大学 教育学部教育学科 教授 大西 孝志 様

先日スクランブル交差点で、白杖を掲げる視覚障害者の方に、高校生が「困っていることはありますか?」と声を掛け、丁寧に案内をしている姿を見かけました。きっと学校や家庭で、「白杖を掲げるのは助けを求めるサイン」と教わっていたのだらうと思います。今の学校教育では、特別支援教育やマイノリティへの理解がしっかり進んでいます。日本の未来については不安な話題も多いですが、こんな若者の姿を見ると「まだまだ希望がある」と思えて、すごく嬉しくなりました。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究企画部上席総括研究員 牧野 泰美 様

私の研究員歴は30年以上になりますが、全難言協全国大会の第1回から関わり、これまでシンポジウム等にも多数参加させていただいてきました。明日のシンポジウムは、「行き先のないミステリーツアー」のようなものになるかもしれませんが、どうなるかは当日のお楽しみということで、皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。

NPO 法人全国ことばを育む会 理事長 今岡 克己 様 ※メッセージ代読

日頃より先生方には子どもたちへのご指導、保護者との関係づくりに尽力いただき、心より感謝して

います。環境や制度は徐々に整備されつつありますが、なお課題も残されており、保護者の組織として今後も改善に向けて努めてまいります。情報化の影響で保護者間のつながりが薄れがちであることも課題と捉え、技術と直接的なつながりとの両立を重視した関係の再構築が重要です。「親・子・先生」の連携の意味を改めて見つめ直し、次世代のサポート体制の在り方を考える機会としたいと願っております。大会のご成功を心よりお祈り申し上げます。

<東京大会実行委員長 挨拶>

東京大会実行委員長 世田谷区立烏山北小学校 校長 河野 芳浩 様

沖縄大会で得た学びを受け継ぎ、横のつながりを広げ、縦のつながりもさらに深めるために、3 日間にわたった充実したプログラムを準備してきました。参加者の皆さんには、各企画を楽しみながら、学びの種を持ち帰っていただき、それを子どもたちの支援につなげていただければ嬉しく思います。東京大会が、皆さんにとって実りある学びと良い思い出になるよう、私たちも精一杯運営してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

<令和7年度 事業経過報告>

(1) 研究部より

8 月 4 日(月)～6 日(水)の 3 日間、「全国研修会 はじめのいっぽ」を国立オリンピック記念青少年総合センターで開催します。研修では、「きこえとことば」のテキストを活用します。すでに 110 名以上の先生方から参加申し込みがあり、関心の高さが伺えます。「はじめのいっぽ」は合宿形式ならではの濃い交流と学びが魅力です。先生方やスタッフとのつながりを大切に、支援や指導に役立てていただければと思います。

(2) 調査・対策部より

基本調査へのご協力ありがとうございました。6 月 30 日を締切とご案内しましたが、まだ未提出のものがあるため、引き続きご対応をお願いします。現時点での分析でわかった事柄については、後ほどの中間報告で改めてお伝えします。

(3) 広報部より

6 月初めに会報を発行し、第1回理事会の議事録はホームページに掲載済みです。3 月 10 日頃に機関誌を発行して、負担金を納めてくださった全国の方々に発送しました。機関誌には全国の先生方に執筆していただくページもありますので、担当になった方は広報部のメールアドレスまでご連絡ください。

(4) 情報ネットワーク部より

ホームページの管理運営と、人材データベースの作成を通じて全国の教室をつないでいくことを目指しています。ホームページの運営は担当者1名で行っているため、情報の収集や発信に限界があります。全国の先生方から「こんないいことがあったよ」「こんな活動してるよ」といった情報を送っていただき、一緒にネットワークを盛り上げていただけたらと思っています。

(5) 庶務・会計部より

負担金納入状況については、現時点で 950 件ほどの納入確認が取れています。所属の地域に戻られたら、各校ごとの状況確認と手続きをお願いできればと思います。期限は 7 月末です。また納入の際は、学校名がわかるようにしていただけると助かります。ご協力をお願いします。

(6) 事務局より ※3団体より情報提供

①日本財団電話リレーサービス『相手の声が読める電話。ヨメテル』

日本財団電話リレーサービス理事長の大沼直紀様より、事業紹介がありました。聴覚障害者にとっては、ファックス、手話・文字リレー、文字表示電話『ヨメテル』の3つは、3大通信革命となりました。グラハム・ベルの業績や歴史的背景にも触れ、自分の声で話し、相手の話が即座に文字で見える『ヨメテル』の社会的意義について詳しい説明をしていただきました。東京大会でも展示ブースが設置されるので、多くの方々に『ヨメテル』を体験してほしいとのことでした。

②社会福祉法人永春会『アレーズ秋桜』

アレーズ秋桜は、全国唯一の聴覚障害児を主対象とした福祉型入所施設で、金町学園より事業譲渡を受けて設立されました。手話を第一言語に生活支援を実施し、聴覚障害のある子供たちが安心して暮らせる場所にしていきたいと考えています。葛飾ろう学校まで片道40分の距離にあり、幅広い年代の子供たちが、実際の生活の中で生じる様々な課題を解決していく中で社会性を身に付けています。聴覚障害のある児童生徒の進路の1つとして、広く認知していただけたらと思います。

③日本コミュニケーション障害学会

2026年6月6日～7日に第52回大会がつくば国際会議場にて開催されます。テーマは「場面緘黙の理解と支援」で、言語聴覚士や教育現場向けの講演・シンポジウムを予定しています。若手研究者による最新の報告や、障害当事者による演劇市民講座も企画中です。当学会は教育分野との親和性の高い学会です。研究発表も12月頃より募集開始します。

<次期全国大会 奈良大会実行委員長 挨拶>

奈良大会実行委員長 奈良県奈良市立椿井小学校 校長 鍵田 幸男 様

来年の8月6日～7日に、奈良市の百年会館と日航ホテル奈良で大会を開催します。近畿大会として、二府四県（大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山）で運営を行う予定です。東京大会に比べると規模は小さいですが、地方大会のスタンダードを目指しています。分科会は大阪が担当予定で、必要に応じて実体験を語っていただくセッションなども設ける予定です。よりよい環境で皆さんをお迎えしたいと考えています。ぜひご参加ください。

<第56回全国大会 準備状況 報告>

青森県理事 青森県青森市立長嶋小学校 校長 山下 征子 先生

令和9年度の青森大会は、7月29日（木）～30日（金）に青森市のリンクステーションホール青森で開催予定です。これから一歩ずつ準備を進めていきます。

<第57回以降の全国大会 予定>

令和10年度 東海ブロック（愛知県） → 令和11年度 中国・四国ブロック

→ 令和12年度 甲信越・北陸ブロック → 令和13年度 北海道ブロック

<全国基本調査 中間報告>

調査・対策部 部長 杉並区立高井戸第四小学校 我謝 佳奈美

○研修派遣制度の継続を希望する 全国からの回答に対して
事務局より

研修派遣制度はコロナ禍で事業化されたが、物価高の影響で全難言協の予算の余裕がなくなっている。事業としては中止するが、講師派遣の相談については引き続き事務局で受けていく。

○全国の難言教育における課題

- ・知的障害の診断は無いが、知的障害の特性がみられる児童生徒の入級もみられる。複数の都道府県で、障害種別を超えた通級指導教室への移行が少しずつ増加している。発達障害がある児童生徒を受け入れる動きが進んでいる。担当者は幅広い知識や技能を求められるため、負担や悩みが大きくなっている。通級期間の長期化、終了時期の見極めの難しさにも繋がっている。
- ・通級による指導の実施形態の変化として、巡回指導に関する回答が多く挙がっている。事前の準備期間がないまま巡回通級が始まって混乱した、巡回する学区が広くて移動の負担が大きい、といった課題も挙げられている。
- ・難聴に関しては、「難聴児童が入学しても難聴学級が開設されなかった」「新設要望を出しても、難聴学級の新設が叶わない」「毎年担当者が替わる」などの課題が複数挙がっている。
- ・研究組織の運営に関しては、難言組織そのものの存続が難しくなっているという意見が増加している。正規教員の減少、長年組織を運営してきた教員の退職、経験の浅い教員の増加、通級教室への移行による難言学級の設置校数の減少といった複数の要因により、事務局の運営が難しくなっている。教員の業務改善が叫ばれる中、運営に携われる人員が確保しにくく、どのように次につないでいくかが難しいという声も多く挙がり、全国的に組織の弱体化が進んでいる。事務局体制を役割分担したり簡素化したりするなど、持続可能な運営の形を模索している。全国的に柔軟性をもった組織改革が重要となっている。

○難言教員が直面している困難な状況

- ・人員不足の中、児童生徒のニーズに応えたいという思いで、必死に対応している。
- ・指導人数が多く、指導内容也多岐に渡り、校務分掌も含めた業務に追われて、研修まで手が回らない。
- ・様々な業務がある中で、研修よりも他の業務が優先される場合があり、研修に対する教員一人一人の温度差がある。
- ・初めて難言の教員として採用され、かつ一人担任で指導への悩みが深刻化している。周囲の教員も経験年数が浅いため、新任者に教えることが困難で、心苦しく思っている。
- ・難言教育という場に対するやりがいや楽しさ、充実感などが見出せずに、苦しいながら何とか頑張っている。

○まとめとして

教員不足など時代とともに変化はあっても、親が子を思う気持ちは変わりません。指導者として、我が子の聞こえとことばの発達に悩む親、そして対象の子供たちに思いを寄せながら支援することが大切だと思います。先輩の先生方との対話から「スキル」と「ソウル」を引継ぎ、そこから生まれる難言教育の魅力を、経験の浅い先生方に感じてほしいと思います。しかし、魅力ややりがいだけでは仕事を続けることはできません。充実した指導を続けやすい環境を整えるために、管理職や行政の方々の協力を得ながら、人的資源や環境整備などを進めていく必要があります。今回の調査から見えた全国の課題について、少しずつでも対応が進んでいくことを願っております。今まで守ってきた難言教育の灯を途絶えさせることなく、これからも「つないで」「つながって」いけますように。今後も、全国の難言に関わる先生方の声を、調査・報告を通して発信していきます。

<特別支援教育についての情報交換 ～中間報告を受けて～>

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 村上 学 様

全国の教育現場では、多様な実態の児童に対応していただいています。子供たちの学びやすさに適した教育など、新しい時代の課題に対応していくには、先生方に大きな苦労や不安が伴いますが、そういった全国の率直な声を吐露できる機会が全国基本調査であり、全難言協の良さだと思います。

車いすテニスの選手である国枝慎吾さんは、「自分が変わっていく時は、わくわくする。」と話していました。時代の変化にしなやかに対応している現在の取組が、次の制度を作っていきます。自分の取組が今、時代を切り開いているというプライドを感じながら、変化に対して学び続けられる教師となり、同じように学び続けられる子供を育てていっていただきたいと思います。我々行政も、何ができるのかを引き続き検討していきます。全国の貴重な実態をまとめていただき、ありがとうございます。

東北福祉大学 教育学部教育学科 教授 大西 孝志 様

私は現在、仙台市で幼稚園でのスーパーバイザーも担当しており、発達障害の子供たちの支援についてアドバイスする立場にあります。元々、私は聴覚障害が専門ですが、子育てや子供の対応については、共通している部分があります。この研究協議会にはネットワークという良さがあり、分からないことがあった時に聞くことができる人が必ずいます。他の障害種に関する組織もたくさんある中で、このように定期的なかわりを継続している組織はなかなかありません。教育を進める上での悩み、指導方法、保護者への対応の仕方などは、このネットワークを通して身に付けていっていただきたいと思います。

学校の先生は、難しいことを優しく教える、愉快地に教える、楽しく教える仕事です。子供たちが分かった、楽しい、おもしろいと思って、学んだことがストンと腑に落ちるような教育を進めていただきたいです。そして、ベテランの先生方にはご自身が身に付けた専門性を、後輩の先生方が同じぐらいの時間をかけずに身に付けていけるよう、継承していったほしいです。

<閉会のことば>

全難言協 副会長 東京都大田区立北糀谷小学校 校長 細井 鏡子

今日は理事会へのご参加と運営へのご協力、ありがとうございました。来賓の方々には貴重なご助言もいただき、心より感謝します。明日からの大会では、講演・パネルディスカッション・全国からの実践発表が行われ、「つながる新しい時代につながり、結びつける」というテーマのもと、活発な交流が期待されています。先生方同士のつながりもさらに深まるでしょう。

以上